## 歷史

加賀蒔絵として有名な金沢漆器は、1630年頃、加賀藩3代藩主前 田利常が美術工芸の振興に力を入れ、桃山文化を代表する高台寺蒔 絵の巨匠五十嵐道甫を細工所の指導者として招き、技法を伝えたこと が始まりである。以後、五十嵐家一門は、歴代藩主に仕えるとともに技 術を受け継いできた。また、道甫の門人といわれる清水九兵衛や印寵



蒔絵の名工椎原市太夫が 江戸から招かれ、加賀蒔絵の 基礎をつくった。このように、 王朝文化からの伝統を受け 継ぎ、藩によって育成された 金沢漆器は優美な貴族文化 に武家文化が加わった特有 のものである。

## 特色

室内調度品、茶道具などの一品制作が特徴である。指物、挽物、曲物 などで造った木地素材に、下塗だけでも布着せ、漆下地など数十工程を 経る本堅地塗である。上塗は無地呂色[ろいろ]磨きや花塗仕上げが主 で、塗立てや金沢独特の紗の目塗など高雅な変わり塗がある。

蒔絵は平蒔絵・高蒔絵・研出蒔絵・肉合研出蒔絵など高度な熟練を要 する繊細な技法を用い、これに螺鈿[らでん]・平文[ひょうもん]・卵殻[らん かく]などの技法も使われ加飾効果を高めている。





The history of Kanazawa lacquerware dates back to around 1630, when Toshitsune Maeda, the 3rd lord of the Kaga clan who promoted arts and crafts, invited a great master of maki-e to introduce the decorative lacquer technique. Subsequently, the master's disciples developed Kanazawa lacquerware by combining the elegant aristocratic culture and the samurai culture.

Kanazawa lacquerware is used for furnishings, tea utensils, etc. The ware is produced through a process of applying Japanese lacquer a few dozen times. Roiro polishing (glossing of an urushi surface) and hana-nuri finish (without surface polishing) are

## ♪情報 INFORMATION

主な生産地 金沢市(Kanazawa City)

主な製品名

茶道具、調度品(Tea ceremony utensils, furnishing goods)

主な生産者

金沢漆器商工業協同組合

(Kanazawa Lacquerware Manufacturers Cooperative Association) 〒920-0918 石川県金沢市尾山町9-13 TEL (076) 263-1157 FAX (076) 263-1158